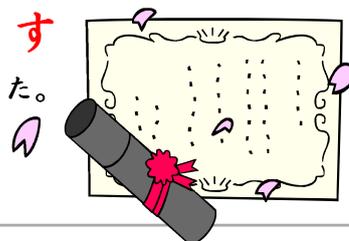




平成27年度 卒業証書授与式

ご卒業 おめでとうございます

厳粛な中で行われた卒業式は、感動的で素晴らしいものになりました。
入善小学校卒業生60名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
そして、保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。
今日の素晴らしい門出を心よりお祝いたします。



平成27年度 卒業証書授与式 式辞

柔らかい光が輝きを増し、春の息吹が感じられるようになりました。希望と喜びに溢れるこのよき日に、入善町教育長 池原哲男 様をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、平成27年度入善小学校卒業証書授与式を挙げていきますことを、誠に嬉しく、心より御礼申し上げます。

巣立ちの喜びを迎えた60名の皆さん、卒業おめでとうございます。私は今、一人一人に卒業証書を渡しました。証書を受け取る凛々しい姿、そして、引き締まった顔を見て、胸が熱くなりました。卒業証書は、6年間の努力の結晶でもあります。同時に、皆さんを見守り、支えてくださった家族の方々の愛情が、凝縮したものでもあります。いつまでも大切にしてほしいと思います。

私は皆さんが3年生の時に入善小学校に着任しました。皆さんの学年は女子に比べて男子が多く、明るさと活気がありました。また、素直で優しく、何事にも真面目に取り組もうとする雰囲気がありました。それから4年間。皆さんは、毎年、確実に成長し、存在感や輝きを増しながら、期待通りの「入善小学校の六年生」へと立派に成長しました。

6月に行った校長室会食では、「最高学年として、自分が出来ることをしっかり頑張りたい」と、誰もが話してくれました。その言葉を聞いて、本当に頼もしく思ったものです。そして、その言葉は多くの場面で、実際の姿となって表れていました。例えば、運動会でのマーチング。演奏や動きに磨きがかかり、昨年とはひと味違う、素晴らしい演技を披露してくれました。コスモホールでの音楽集会。皆さんが歌った「君のをせて」と「COSMOS」には、多くの聴衆が涙しました。皆さんが中心となって行った「あいさつ運動」。さわやかな挨拶と温もりのある握手を通して、心が通い合いました。日々の給食当番や清掃、委員会活動。真剣に取り組む姿は、下級生のお手本となり、入善小学校のよき伝統が、しっかり繋がりました。最上級生が輝いた今年度、入善小学校は、本当に素敵な年となりました。

今、小学校生活を終え、新しい世界へ羽ばたこうとしている皆さんの門出に当たり、はなむけに「一意専心」という言葉を贈ります。この言葉は、一つのことを極めたり、夢を実現させようと努力したりするときに、よく使われます。「一意」とは、一つのこと。「専心」は、ひたすら心を集中させることです。ですから「一意専心」とは、「物事の実現に向け、いろいろな障害や迷いがあるとしても、それらを乗り越え、一つのこと集中して辛抱強く努力を続けていく」という意味です。

今年度はオリンピックが開催される年ですが、最近のオリンピックでは、若い選手の活躍が目立ちます。記憶に新しい冬季ソチオリンピックで、唯一金メダルを獲得したフィギュアスケートの羽生結弦選手は、当時19歳。日本人最年少で銀メダルを獲得した、スノーボードハーフパイプの平野歩夢選手は15歳。小さい頃から、夢に向かってたゆまぬ努力を積み重ねてきた結果が、一気に花開きました。今年も多くの種目で、若い選手の活躍が期待されています。

「登高」には皆さんの素敵な夢が綴られています。ぜひ、実現させてほしいと思います。ただ、皆さんの行く手には、幾多の困難や試練が待ち受けていると思います。「一意専心」。苦しいことに背を向けず、迷うことがあっても自分を信じ、勇気をもって、夢の実現に向かって挑戦し続けてください。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。お子様の小学校卒業にあたり、幼き日に思いを馳せ、温かく、あるときは厳しく育ててになった数々の思い出に、胸を熱くされていることと思います。中学校は、心と体の著しい成長を遂げる楽しみな時期です。反面、心を悩ませる時期であろうかと思えます。どのようなことがあってもお子様との対話を大切にされ、常によき相談相手となって、成長を温かく見守り、支えていただきたいと思えます。

最後になりました。入善小学校での6年間の積み重ねは、142年の伝統と独自の風土を受け継いだ力となって言動に表れます。4月からは、新しい友達との出会いがあります。入善小学校で培った力を自信に、皆で仲良く、力を合わせて、素敵な中学生になってください。

入善小学校を巣立ち、新しい人生の第一歩を踏み出す皆さんに、幸多かれと祈りつつ、式辞といたします。

平成28年3月17日

入善町立入善小学校 校長 宮崎新悟